

第5回 稲戸井調節池整備・活用検討懇談会

これまでの検討経緯について

および

第4回検討懇談会の議事要旨の確認

平成21年2月25日

国土交通省 利根川上流河川事務所

1. これまでの検討経緯について

■稲戸井調節池整備・活用検討懇談会（第1回）

・平成15年11月28日、取手市福社会館

議事

- 1) 稲戸井調節池について
 - (1) 概要
 - (2) 調節池の効果
- 2) 既往調査の概要
- 3) 稲戸井調節池に対する意見交換

【第1回懇談会のポイント】

- 事務局より以下の項目について説明を行った
 - ・掘削するところは用地買収を行う
 - ・掘削の仕方、その後の土地利用について議論をお願いしたい
 - ・平成19年度末には、稲戸井の調節池化を概成させたい
- 環境関係の意見として、以下の項目があげられた
 - ・稲戸井調節池を象徴する（特徴的）な動植物の確認
 - ・稲戸井調節池の乾燥化の進行
 - ・周辺の市街地化による稲戸井調節池の環境ポテンシャルの相対的向上
 - ・稲戸井調節池の池内掘削にあたっては、生物種または群落に配慮が必要
 - ・稲戸井調節池の池内形状は、土地利用や管理形態、景観への配慮が必要

■稲戸井調節池整備・活用検討懇談会（第2回）

・平成16年11月11日、取手市グリーンスポーツセンター

議事

- 1) 第1回検討懇談会の議事概要について
- 2) 掘削計画（案）について
- 3) 現況の環境評価について

【第2回懇談会のポイント】

- 掘削計画（案）について事務局から3案を提示し、メリハリをつけた③案で掘削計画の検討を進めることに決定した
（③案：掘削基盤高 Y.P.+2.8、ゴルフ場と大野川左岸は掘削しない、守谷市・取手市の利活用範囲としてY.P.+5.5を確保）
- 利活用に関する意見として、「Y.P.+5.5だけでなく、Y.P.+2.8の使い方を考えることは可能ではないか」「自然を生かした方法で、市民の憩いの場が作られることをお願いしたい」があげられた
- 多くの調査データの解析・評価や環境モニタリングを、掘削事業と並行して行っていただきたい
- 調節池周辺の貴重な自然、フクロウ等の重要な生物の生息場所等については、地域の生態系への配慮が必要であることから、可能な範囲で事業の影響について検討し、計画に反映する

■稲戸井調節池整備・活用検討懇談会（第3回）

・平成17年9月15日、取手市グリーンスポーツセンター

議事

- 1) 第2回検討懇談会の議事概要
- 2) 環境影響検討
- 3) 環境復元実験

【第3回懇談会のポイント】

- 地元の自治体やボランティアが行っている調査データの活用も必要である
- 事務局サイドに委員の意見の活用をするようにと指摘。国交省サイドは、費用をかけない堤防の維持管理、清掃及び環境調査について検討してもらいたい
- 雄大に自然が残る地域なので、地元が目玉となる計画や施工を進めてほしい
- 自然に配慮して（治水対策を）ゆっくりやれと言う議論には、行政の立場としてとても耐えられない。利根川の安全確保を第一に早急に事業を進めていただきたい
- サシバの予測結果は、現地の確認状況から判断すると間違い。営巣木として利用していたハンノキは植林しなければ生えてこない
- 環境復元実験において表土撒き出しをするようであるが、実際に行う場合は他河川の事例を参考としつつ、慎重に行った方がよい

■稲戸井調節池整備・活用検討懇談会（第4回）

・平成18年10月26日、取手福祉会館

議事

- 1) 第3回検討懇談会 議事要旨について
- 2) 当面の事業の進め方について
- 3) 掘削工事に係る環境レポートについて
- 4) その他意見交換

【第4回懇談会のポイント】

- 当面の事業の進め方については、特に問題となる意見はなかった
- 環境レポートに関する議論として、以下の項目があげられた
 - ・カワセミに係る営巣環境への配慮措置の検討
 - ・外来種に対する植生管理を踏まえた土地利用計画
 - ・生態系の多様性を考慮した環境回復については、委員からの意見を取り入れ、具体的な検討を進める
 - ・段階的かつモニタリングを実施しながら事業を進めるのであれば、環境配慮に係るいろいろな試みを検討することが望ましい

2. 第4回検討懇談会 議事要旨の確認

第4回 稲戸井調節池 整備・活用検討懇談会 議事要旨

1) 第3回検討懇談会の議事要旨について

- ・問題提起等の発言や意見については、必要に応じて議事要旨に書き加えることを検討する。

2) 当面の事業の進め方について

- ・当面の事業の進め方については、特に問題となる意見はなかった。

3) 掘削工事に係る環境レポートについて

- ・カワセミに係る代替環境の存在やカワセミ護岸等の配慮措置については、引き続き検討を進めるものとする。
- ・復元実験では、表土播き出しの有無、表層土壌水分量が問題になると考えられる。復元実験については、引き続き検討を進めるものとする。
- ・外来種に対する植生管理を徹底する必要がある。外来種の植生管理を踏まえた土地利用計画を検討することが望ましい。
- ・生態系の多様性を考慮した環境回復については、委員からの意見を取り入れ、具体的な検討を進めるものとする。
- ・段階的かつモニタリングを実施しながら事業を進めるのであれば、環境配慮に係るいろいろな試みを検討することが望ましい。

4) その他

- ・稲戸井調節池内の環境保全区域や緩衝地域は、自然観察の場として地域の目玉になると思われるが、観光地化には気をつける必要がある。
- ・取手地域は、現在、銃猟禁止区域の指定に向けて動いている。

参考資料) 掘削計画の比較検討 (案) (※第2回稲戸井調節池 整備・活用検討懇談会 配付資料より)

(3) 掘削計画の比較検討 (案)

「池内掘削の方針」に基づき、以下の掘削計画の基本事項を踏まえて検討を行う。

- ・ 治水容量の確保
- ・ 首都圏氾濫区域堤防強化事業 (H16~25) への土砂供給
- ・ 概ね10ヶ年の掘削計画 (平成25年を目標)

時代	地層名	土質名	記号
完新世 (沖積層)	盛土	粘性土	Ts
	表土	砂質土	As
	沖積層	砂質土	As
		粘性土	Ac
更新世 (洪積層)		腐植土	Ap
	関東ローム層	ローム層	Lm
	常総層	砂質土	Jts
		常総粘土層	Jtc
	成田層	砂質土	Ds
		粘性土	Dc
砂礫		Dg	

